

総動員伝道

総動員伝道の目標

1. すべての人に福音を伝えよう。
2. すべてのクリスチャンがよいあかし人になろう。
3. すべての教会が成長しよう。

2006年も目標をめざして

総動員伝道 代表 姫井雅夫



新年、おめでとうございます。

昨年も例年と同じように多くの事件があり、自然災害があり、テロで多くの人が死んで行きました。まさに終末に向けて時は確実に刻まれていると思うがいたします。「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられ、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日がきます」(マタイ二四・14)。終わりの日が来る前におかねばならないことは、福音宣教です。

総動員伝道には3つの目標があります。

1. すべての人に福音を。
2. すべてのクリスチャンをよい証人に。
3. すべての教会に祝福を。

「教会を、信徒を、方策を、「総動員」して取り組めば、この目標を達成することが出来る、との確信で総動員伝道が四国を皮切りに展開されました。時代の流れに沿っ

て大きなうねりを起こしてきました。36年目に入る今年も目標は一切変わりません。宣教(伝道)、弟子化、教会形成、この3つは切り離せません。

そこで思うことは、弟子化がかぎ、と言うことです。弟子たちによつて福音はあかしされ、伝道されていきました。弟子達の集まりが教会です。ではいかなる弟子たちが養成されてきたか、いかなる弟子になっているか、という問いが自らに問われてくると思っています。

真の弟子(デイスイブル)となるために3つのDをご紹介します。

デイポジション

神との交わりのために、聖書を読まない、お祈りをしないと、神からの恵みを受け取ることもなく、力を得ることもありません。これでは咲きかけた花がしぼんでいくのも当然です。礼拝に行くのも億劫、ましてや祈禱会は自分が出席する会合ではないと思っっています。弟子たちによつて伝道させるはずなのに、伝道どころではありません。今年はぜひ聖書を読みましよう。祈りましよう。神との交わりを大切にしましよう。整えられた器を神はお使いください。

デイケイション

『x33げまつりし、わがみとたまは』(聖歌579)は歌詞だけの事で、私とは関係ないというのでは困ります。信仰の告白としてまごころから賛美できるようにありたいと思います。神のみ手に握られる時、弱く足りない私たちも神の器として宣教の働きに参画できるのです。神にまったく捧げ(デイケートして)主の血を心にあてがいがい、聖別していただいでご用の一端を担わせていただくようではありませんか。

デモンストレーション

口先だけが伝道の働きをするではありません。私たちの全存在が神を表現している(デモンストレート)のです。私たちのちよつとした親切、慰めの行為、励ましのたよりが神の愛を表すのです。伝道するのだ、と大上段に構える必要はありません。ごく自然体で良いのです。キリストによつて神と直結していると自然に神の愛を表してくるのです。ダイヤモンドは光に照らされた時のみ輝くのです。私たちも神の光を反射させながら、人々の心を照らしているではありませんか。

今年も上記の3つの目標に向けてあらゆることに取り組んでいこうと思っっています。祈つてください。必要が満たされるようご支援ください。働きにご参加ください。主の豊かな恵みが皆さんの上にありますように。



この山地を下さい

有賀喜一

どうか今、主があの日に約束されたこの山地を私に与えてください。

(ヨシユア 一四・12)

1 主の約束の故の挑戦です。

神がアブラハムを召された時創世・1・1〜3と約束され、出エジプトして、約束の地を前にしたヨシユアに申命一・21と約束され、ヨシユアに前進命令が出たときもヨシユア一・2〜3と約束されました。神の日本に対する総福音化への挑戦は変わらないと信じます。

2、主の勝利の故の挑戦です。

総伝の働きによって示されている証、勝利の証の故に聖名を崇めます。地域で一斉という形でなくとも総伝を実施するところに勝利があります。

3、主の民の信仰の故の挑戦です。

ヨシユアとカレブの徹底した服従が神の約束の達成をもたらしました。カレブは85歳になっても「この山地をください」と主に訴えました。

主の最善は必ずこれからやってくるとの信仰をもって2006年を前進していきましょう。

主にあるご厚誼とご指導を心から感謝し、ご祝福をお祈り申し上げます。



信仰の基本姿勢を

安藤能成

主は私の羊飼い。私は、乏しいことがありません。

(詩篇二三・1)

新しい年、私たちの信仰の基本姿勢を正してゆきたいと思えます。

その第一は、主イエス・キリストを人生の牧者として認めているか、あらゆる事柄について導きの主と仰いでいるか、ということですが。

本当に主を自分にとって個人的に羊飼いとして信頼し切った人生を送るならば、詩篇23篇の続くみことばの約束が実現してくるはずですが。

主イエス・キリストの群れとしての教会においては、礼拝と伝道と教育が充実されて、この世において明確に主の民としての証しが立てられ、群れの内側では霊的な交わりが豊かになるようにということを期待したいと思います。



現状打開への期待

岡田信良

新たな年を迎え、今年こそは現状打開の年として神の御慈愛にあずかりたいと祈るとともに大いなる期待を寄せるものであります。

日本の現状に目を注ぎます時、1日100人を越し、年間3万数千人に及ぶ自殺者があると聞かれ、その背後には数倍に及ぶ予備軍がいると聞いております。

何としてもこの現状を打開し、神によって創造された尊いいのちを失うことのないような社会を取り戻さねばなりません。

それは唯一主イエス・キリストを宣べ伝える事を通して、生きる喜びといのちの大切さを悟らせる事以外にないことを知らしめることであると思います。

幸いにも今年は15年振りに首都圏キリスト教大会が再開され、首都圏にある教会が協力参加し、福音を大いに広めることに励もうとしていることは感謝であります。

総動員伝道もその一翼を担っております。この大会によって福音宣教が大胆になされ、多くの人々が神の救いに導かれるよう大いに期待を寄せている次第であります。



三つの継続

小助川次雄

新年のお喜びを申し上げます。

健康と年齢のハンディを覚えながらも主にあつて生かされている幸いを感じ謝しているものとして、新しい年の生活基調を祈らざるを得ません。そのとき、3つの継続に気付かされ、抱負と決めました。祈りつつよく考えて――

1. あたりまえのことを誠実に継続しよう。
2. できることをできるだけ実行することを継続しよう。
3. 自分で、「今、できると思う」以上のことをいつも追求することを継続しよう。

言うまでもなく、信仰をもって、みことばに基づいて、ということですが、健康と年齢という、自分の意志だけでは自由に操作できない抑圧要因に縛られながらも、「信仰の奇跡」？を夢見る老人として生きたいと願っています。そして落ち着いたところは、この「3つの継続」です。

この場合、反動的な停滞感や燃えつき症候群の虜にはならず、「カメのように」着実に前進し続けられると思います。





宣教活動の連峰

中島秀一

各地域にも1年に亘る宣教活動があることと思う。私の関係する主な集会は次の通りである。1月は「断食祈禱聖会」、2月は「日本ケズイック聖会」、「東京ケズイック聖会」、4月は「東京イースターのつどい」、5月は「首都圏キリスト教大会」、6月は「再臨待望東京大会」、「弾圧記念聖会」、8月は「日本伝道の幻を語る会」、9月は「再臨教理セミナー」、10月は「マジック・オブ・ラブ」、「日本聖化大会」、11月は「バックストン聖会」など。まさに美しい宣教連峰である。

特に今年の最大の集会は5月12日から14日に行われる「首都圏キリスト教大会」である。重要なことは本大会を独立峰として捕らえるのではなく、わが国の宣教連峰の一つとして捕らえることである。神にとつては夫々の集會に大小があるわけではなく、すべてが重要なのである。それ故に集會の主催者は、夫々を独立峰ではなく、美しい宣教の連峰とするために務めなくてはならない。

今、最も必要なことは祈りの連鎖であり、主にある一致と協力である。



希望を持って

福沢満雄

あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見出そう。

(伝道者一章1節)

新年明けましておめでとうございませう。

日本の諸教会が今年元日が始まる日ですので、礼拝を奉げて出発しました。神様からの約束のみ言葉をお読みいただき新しいビジョンに向かって第一歩を踏み出した事と思えます。日本宣教は水の上にパンを投げているように感じますが、決してそうではありません。必ず大収穫の時が来ます。今年も「信仰と希望と愛」(コリント一三・13)を持って私も自分の走るべき道のりをゆっくり一歩一歩、主に任せ、教会に仕えて行きたいと祈っています。

皆様の上に 祝福がありますように祈りつつ。



恵み・感謝・協力・前進

住吉英治

総動員伝道の委員の一人に加えられる、実に沢山のことを教えられ、恵みを受け、感謝しています。いろいろな先生方や信徒の方と知り合いになり、多くの教会を訪問する機会も与えられました。それぞれの先生方や信徒の方の伝道方法、考え方、教会形成、課題、苦闘。これらを自分の仕える教会に還元したいと思えます。

総伝は今年、「21世紀の宣教を目指し」と題して各教団・教派の指導者の方に機関紙3面に書いていただく予定です。宣教理念や具体的伝道方策などお聞きできれば幸いと願っています。私の属する教団の機構改革などその一例かも知れません。

ある先生が、日本宣教の1パーセントの壁を破るにはどうしても教会が一致・協力する必要があると仰ったのが頭の片隅にあります。一教会や教団等が成長するに止まらず、全体的な底上げが必要と言うことです。横の協力関係が難しいと言われ続けていますが、どのように受け止め、打破していったらよいのでしょうか。

総伝の一員として微力ですが、日本の教会の協力・前進に努めています。と思っています。



キリストの愛は伝道

鈴木留蔵

主のみ教えは完全で、たましいを生き返らせ、主のあかしは確かで、わきまえのない者を賢くする。主の戒めは正しくて、人の心を喜ばせ、主の仰せはきよくて、人の目を明るくする。

(詩篇一九・7-8)

「光陰矢の如し」と言いますが、月日の経つのは早いものです。21世紀を迎えてすでに5年が過ぎ去りました。この時に主から「あなたは何をしたか」と問われる時、何と答えられるでしょうか。その時、総動員伝道において何名の人々をキリストに導いて、救いに至らしめました、また総動員伝道を通して天に宝を積み上げていただきましたと主のみに報告の出来る人は幸いです。

主のみ教えは完全で、たましいを生き返らせることが、キリストの本當の救いです。

迎えた2006年は、各教会、教団、各種伝道団体が、みな、心を合わせ思いを一つにして総動員伝道に全力を注いで励みたいものです。もう一つ大切なことは個人伝道です。個人伝道はいつでも、どこでも、だれにでも出来る伝道です。ぜひ励んで欲しいと思います。



